# Press Release

2025 年 9 月 4 日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
（東証プライム /証券コード：3762）

## Java 対応テスト自動化ツール「Jtest 2025.1」の販売を開始

### 静的解析の LLM 連携機能拡張により開発者の修正作業をサポート。

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢井隆晴、以下「テクマトリックス」）は、米国 Parasoft Corporation（本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa、以下「Parasoft 社」）が開発した Java 対応テスト自動化ツール「Jtest 2025.1」の販売を 2025 年 9 月 4 日より開始します。

「Jtest」は、静的解析と単体テスト支援によって、Java ソースコードの品質可視化と単体テストの効率化を強力にサポートする Java 対応テスト自動化ツールです。静的解析では、コーディングルール解析とフロー解析という 2 種類の解析方法で、ソースコードに潜む問題点を指摘します。コーディングルール解析では、4,000 個超のルールでソースコードを検証し、プログラム中の問題の未然防止や保守性の向上を支援します。フロー解析では、クラスやパッケージを横断する膨大な数の処理フローの中から、リソースリーク、セキュリティ脆弱性などのバグの可能性が潜む特定のフローを検出します。単体テスト支援では、Java 単体テスト用オープンソースフレームワークである JUnit で利用可能なテストテンプレートやモックを自動作成し、単体テストにかかる工数を削減します。さらに、Web ブラウザー上でダッシュボード表示によるさまざまな情報提供が可能なレポーティング機能も装備しており、リモートワーク業務下においてもプロジェクトメンバー間で効率的なソースコードの品質レビューが行える環境を提供します。

このたびのバージョンアップでは、Jtest に搭載されている OpenAI や Azure OpenAI との連携機能に加えて、OpenAI REST API と互換性があり、チャットコンプリーションエンドポイントを持つ、大規模言語モデル（Large Language Models、以下「LLM」）プロバイダーとの連携を強化しました。また、静的解析機能では、CWE（Common Weakness Enumeration）の ver.4.17 や、Java プログラミングにおけるセキュリティと信頼性を向上させるためのコーディングガイドラインである CERT for Java が追加され、18 種類のセキュリティコンプライアンスルールに対応しました。さらに、自然言語で質問できる AI アシスタント機能が追加されました。IDE 上で Jtest の利用方法に関する質問を入力すると、AI アシスタントが製品ドキュメントおよび事前に設定された LLM プロバイダーとの統合に基づいて回答します。Jtest をはじめて使う方でも、必要な情報を効率的に取得できるため、製品学習を円滑に行えます。

テクマトリックスは、Parasoft 社製品の国内総販売代理店として、Java ソフトウェア開発に携わるすべてのお客様の課題解決に最適なツールとして、Jtest の販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を強化してまいります。

【Jtest 2025.1 の新機能・改善点】

- **LLM 連携機能の強化**
  - **ローカル環境の LLM プロバイダーを選択可能**

    OpenAI や Azure OpenAI に加えて、OpenAI REST API と互換性があり、チャットコンプリーションエンドポイントを持つ任意の LLM プロバイダーを選択することが可能になりました。
    これにより、ローカルにデプロイされたモデルと連携し、データが外部に送信されることなく、セキュアな環境で LLM を活用できます。

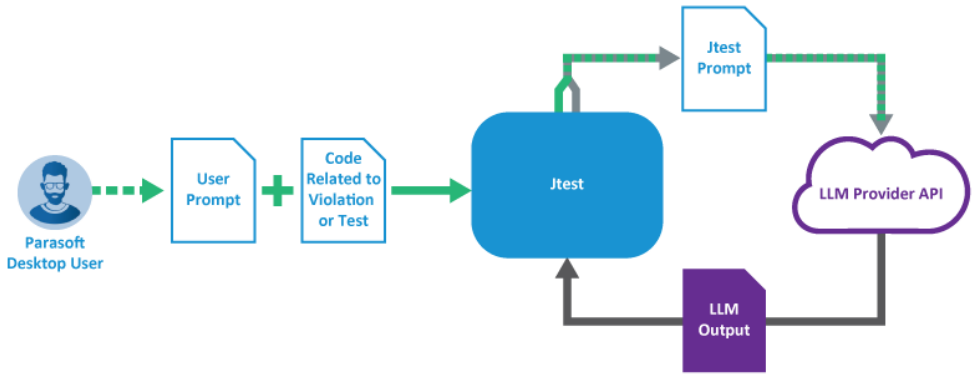


図 1:LLM との連携機能のイメージ

※ LLM 連携機能には OpenAI の利用契約は含まれておりません。利用者が個別に契約する必要があります。
※ OpenAI REST API と互換性があり、チャットコンプリーションエンドポイントを持つ LLM のみのサポートです。

  - **差分エディター機能の追加**

    AI が推奨する修正案を、差分エディター上で確認し、直接コードを修正できるようになりました。修正案はエディター上ですべてに適用することも、一部を選択して適用することも可能です。これにより、静的解析の違反修正プロセスを加速することができます。

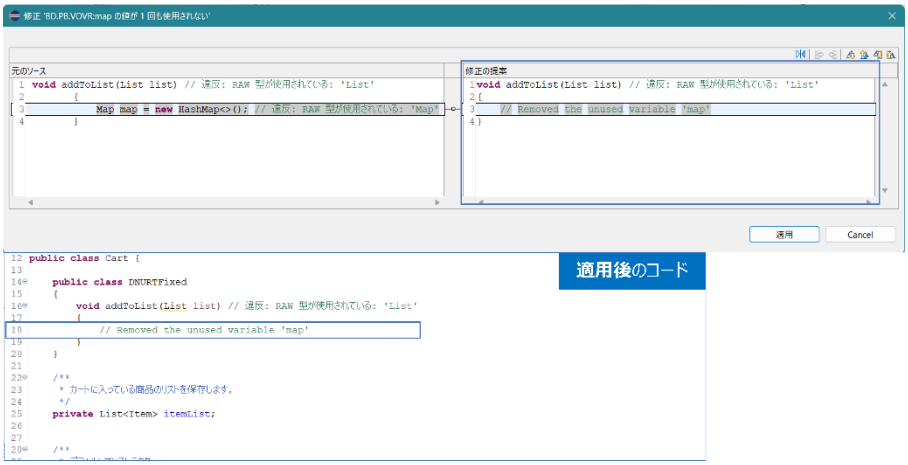


図 2:差分エディター機能の利用イメージ

- **実行に失敗したテストケースを AI が改善**

  実行に失敗したテストケースに対して、AI が修正案を掲示する、単体テストアシスタント機能が追加されました。テストケースの改善に AI を利用することで、テスト効率の向上に貢献します。

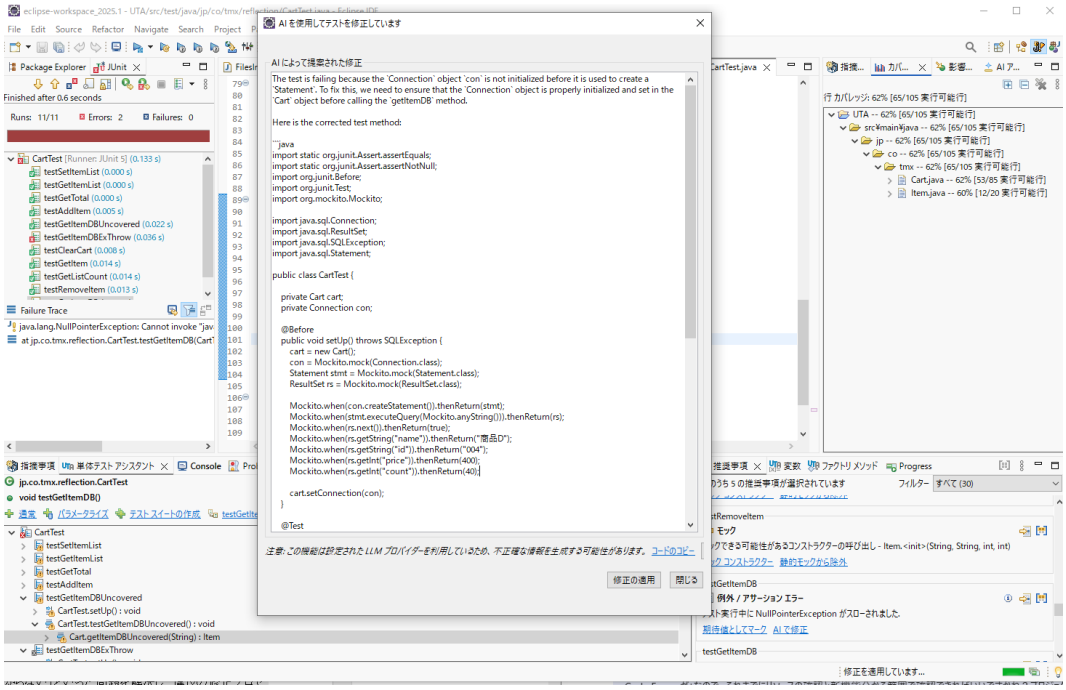

図 3：失敗したテストケースに対する AI の修正提案のイメージ

- **AI アシスタントによる問い合わせのサポート**

  自然言語で質問できる AI アシスタント機能が追加されました。Jtest の利用方法に関する質問を入力すると、製品ドキュメントの内容に基づき大規模言語モデル（LLM）プロバイダーが即座に最適な回答へ導きます。Jtest をはじめて利用する方でも、必要な情報を効率的に取得できるため、製品の習得を円滑に進めることができます。

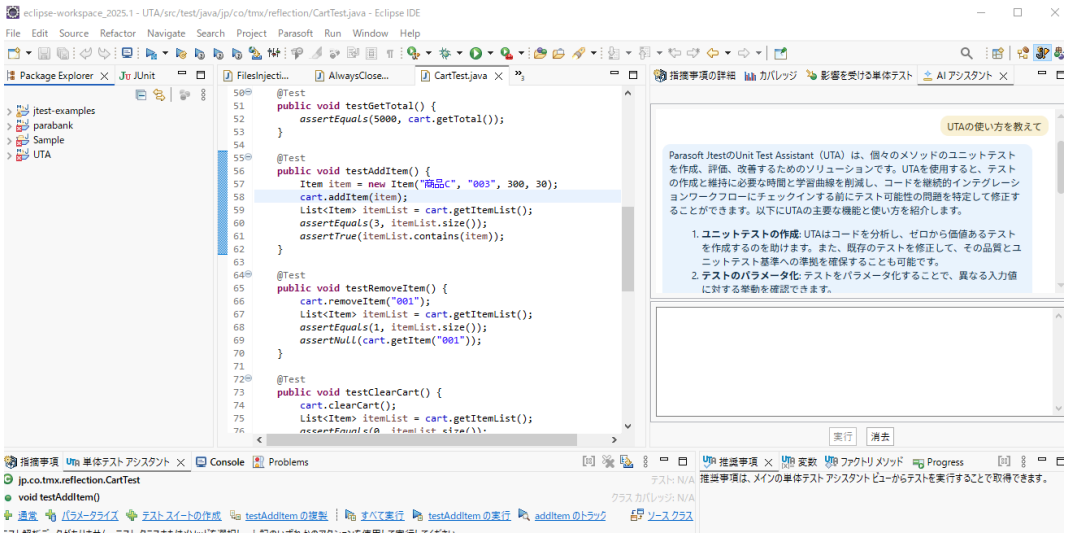

図 4：AI アシスタントへの質問イメージ

- **GitHub Copilot Chat 連携で静的解析違反の修正案を自動生成**

  Visual Studio Code での開発において、静的解析違反を効率的に解決するための GitHub Copilot Chat 連携機能がサポートされました。従来の静的解析ツールで課題とされていた「違反の修正に時間がかかる」や「違反の具体的な修正方法がわからない」といった問題を解消し、違反の修正プロセスを加速することができます。

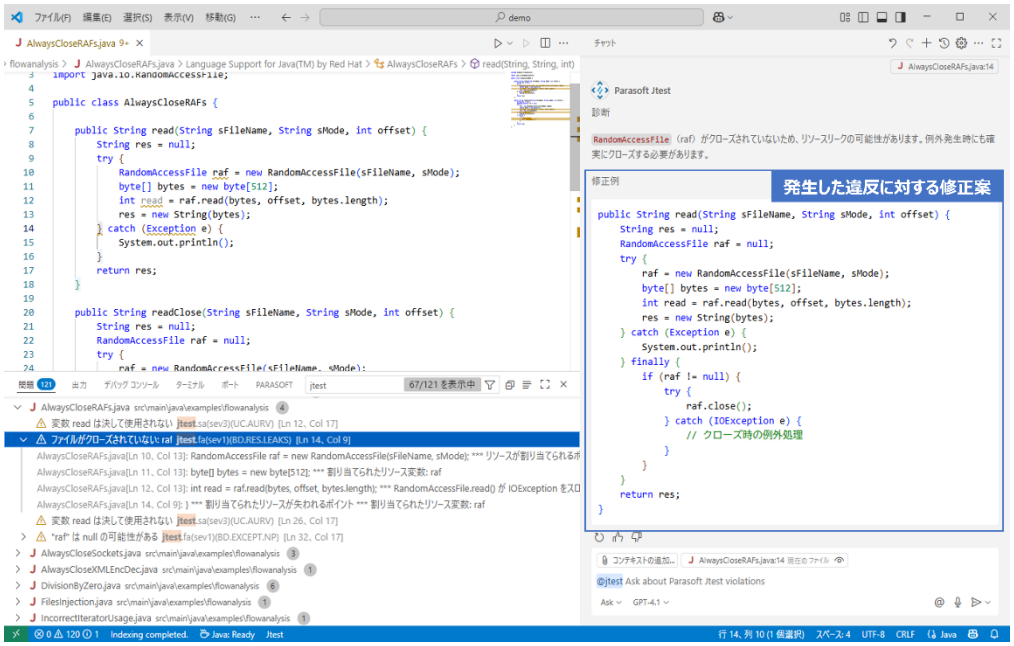


図 5：Visual Studio Code での静的解析違反修正のイメージ

※ GitHub Copilot Chat 連携機能には GitHub Copilot の利用契約は含まれておりません。利用者が個別に契約する必要があります。

- **CWE4.17 や CERT for Java といったセキュリティコンプライアンスルールを追加**

  ソフトウェアの脆弱性を識別するための共通脆弱性タイプ一覧である CWE（Common Weakness Enumeration）の ver.4.17 や、Java プログラミングにおけるセキュリティと信頼性を向上させるためのコーディングガイドラインである CERT for Java が追加されました。

  Jtest は以下の 18 種類のセキュリティコンプライアンスルールに対応しています。

  【Jtest のセキュリティコンプライアンスルール】

  - CERT for Java
  - CERT for Java Guidelines
  - CWE 4.17
  - CWE Top 25 2024
  - CWE Top 25 2023
  - CWE Top 25 + On the Cusp 2024
  - CWE Top 25 + On the Cusp 2023
  - DISA-ASD-STIG
  - HIPAA
  - OWASP API Security Top 10-2019
  - OWASP API Security Top 10-2023
  - OWASP ASVS 4.0.3
  - OWASP Top 10-2021
  - OWASP Top 10-2017
  - PCI DSS 4.0
  - PCI DSS 3.2
  - UL 2900
  - VVSG 2.0

  ※ セキュリティコンプライアンスルールによる解析には、セキュリティコンプライアンスパックオプション（別売）が必要です。

【Parasoft DTP 2025.1（レポーティング機能）の新機能・改善点】

- **コンプライアンスの遵守を促進するパッケージを更新**

  CWE Compliance アーティファクトで CWE 4.17 がサポートされました。Jtest による静的解析の結果から CWE 4.17 や CWE Top 25 2024、OWASP API Security Top 10 2024 に則ったレポートをいつでも確認できます。ガイドラインの遵守状況の説明責任を果たすことが容易になるだけでなく、未遵守箇所を早期に特定し必要な措置を講ずることにより、セキュリティ上の欠陥のあるソフトウェアに関連するビジネスリスクを排除することが可能になります。

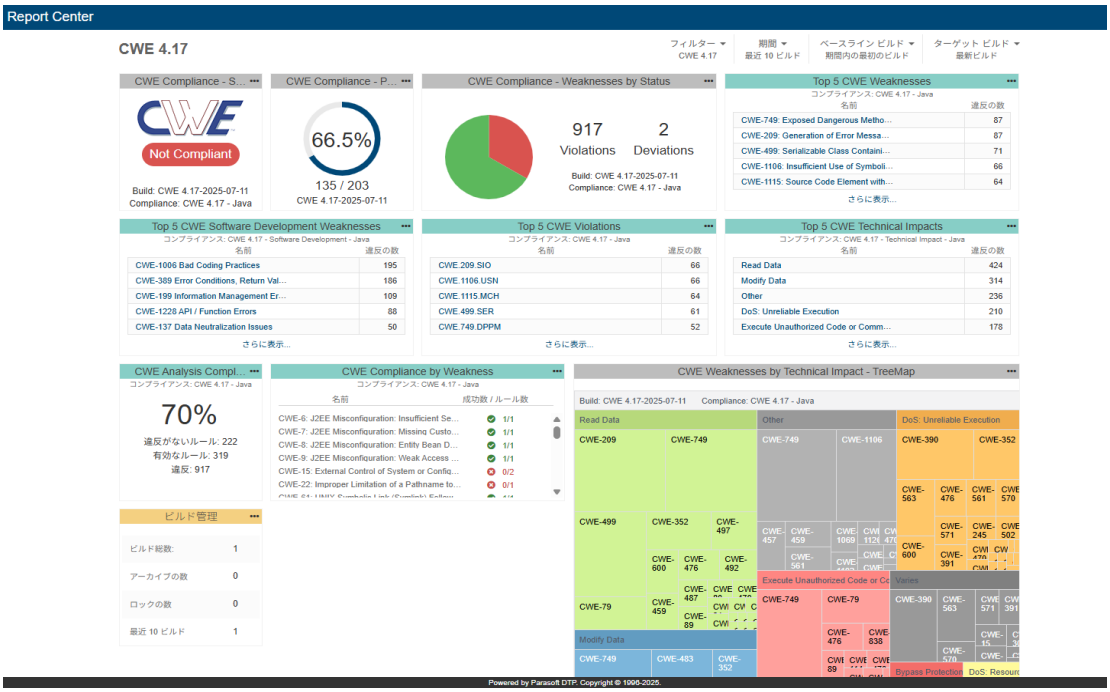


図 6：CWE 4.17 用ダッシュボード

※本機能を利用するには、セキュリティコンプライアンスパックオプション（別売）が必要です。

【稼動環境】

- Windows 64bit
  Windows 10、Windows 11、Windows Server 2022、Windows Server 2025

- Linux 64bit
  Linux glibc 2.17 以上

- プラグインできる統合開発環境
  Eclipse 2022-03(4.23)～2025-03(4.35)、IntelliJ 2022.1～2025.1、Visual Studio Code

- プラグインできるビルドツール
  Apache Maven 3.1.0～4.0.0、Gradle 4.2～8.7、Apache Ant 1.7～1.9.14

- 解析対象の Java のサポート
  Java 1.3～Java 21

製品の詳細は Web ページ https://www.techmatrix.co.jp/product/jtest/ をご確認ください。

---

・ **販売開始日**
2025 年 9 月 4 日

・ **出荷開始予定日**
2025 年 9 月 4 日

2025 年 9 月 4 日において、保守サービスをご契約いただいている Jtest のユーザー様には、「Jtest 2025.1」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

---

■テクマトリックス株式会社について
テクマトリックス（東証プライム：3762）は、お客様のニーズに沿った最適な IT インフラと IT ライフサイクルをワンストップで提供する「情報基盤事業」、蓄積された業務ノウハウを実装したアプリケーションの提供により顧客の課題解決を実現する「アプリケーション・サービス事業」、“医療情報をみんなの手に。そして、未来へ。”をテーマに健康な社会を支える医療情報インフラの構築に取り組む「医療システム事業」の 3 事業を展開し、顧客企業のビジネスモデル変革と競争力の強化をサポートしています。

■Parasoft Corporation について
Parasoft 社は、30 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft 社のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、頑強なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 社製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組み込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。Parasoft 社のコンサルティングサービスは、ツールでは解決できない問題の解決や開発プロセスの改善など、Parasoft 社の 30 年以上の経験を直接お客様に提供し、お客様の改善活動を支援します。
詳細は Web サイト： https://www.parasoft.com/ をご参照ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
テクマトリックス株式会社
ソフトウェアエンジニアリング事業部 Jtest 担当
E-mail：parasoft-info@techmatrix.co.jp
TEL：03-4405-7853

*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。